

日本航空株式会社 2023年3月期 第2四半期決算 ご説明・解説



JAPAN AIRLINES



「JAL SKY MUSEUM」
2022 第16回
キッズデザイン賞受賞



「JAL SKY MUSEUM」が2022年度の「グッドデザイン賞」「キッズデザイン賞」を受賞

2022年11月
代表取締役 副社長執行役員 清水新一郎

1. JALグループ 2022年度 上期業績
2. JALグループ 2022年度通期連結業績予想
3. 下期の取り組み

JALグループ 2022年度 上期業績（4月～9月）



(単位：億円)	2019年度 上期（コロナ前）	2021年度 上期	2022年度 上期
売上収益	7,489	2,906	6,185
費用	6,715	4,429	6,372
EBIT	829	▲1,518	3
EBIT=財務・法人所得税前損益（税引前損益から利息等の財務収支を除いたもの）			
純損益	541	▲1,049	▲21
純損益=親会社の所有者に帰属する四半期損益			

上期業績 領域別の実績



フルサービスキャリア

第2四半期には、燃油市況高騰下でも
旅客数がコロナ前比
国際線40%・国内線75%の水準で
黒字化を達成、収益性は着実に改善

FY22Q2 売上収益

3,796億円

貨物・郵便

総需要が落ち込む中、
高い単価水準にて物量を確保し増収を達成

FY22Q2 売上収益

1,262億円

フルサービスキャリア + 貨物・郵便

FY22 Q2 EBIT

▲150億円

LCC

中国線の厳しい運航制限、国内LCCの厳しい
経営環境により苦戦が続くが、
中長距離国際線LCCビジネスは順調に成長

FY22Q2 売上収益

115億円

FY22Q2 EBIT

▲38億円

連結子会社であるZIPAIRおよび
スプリング・ジャパン2社の売上収益

ZIPAIRおよびスプリング・ジャパンに
加えて、ジェットスター・ジャパン
(持分法適用会社)に関わるものを含む

マイル・ライフ・インフラ等

マイレージ事業は安定的に利益を計上、JALUX
の連結化によるコマース事業の拡充と併せて航
空事業に続く第2の柱として収益貢献

FY22Q2売上収益

1,010億円

FY22Q2 EBIT

193億円

- ・ 上記の領域別の売上収益・EBITについては、社内管理上の簡便的手法で試算したものであり、事業セグメント別の売上収益・利益ではありません
- ・ 上記の領域区分は、航空運送事業セグメント、その他とは一対一で対応しておりません
- ・ 今後社内管理ルールの変更等により、事後的に変更される可能性がある、あくまでも便宜的な数値であることをご了承願います
- ・ なお、当該社内試算値は今年度より行っているため、前年度の数字はございません

1. JALグループ 2022年度 上期業績
2. JALグループ 2022年度通期連結業績予想
3. 下期の取り組み

JALグループ 2022年度 業績予想

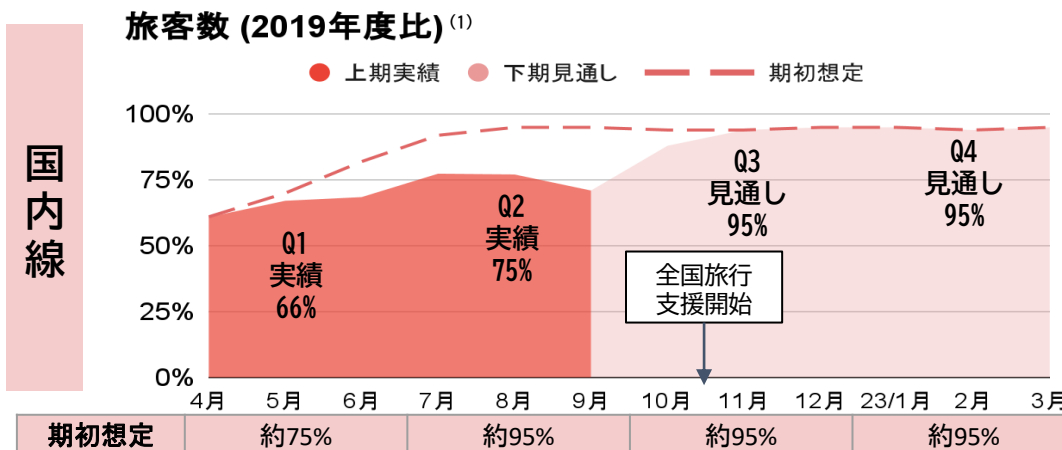
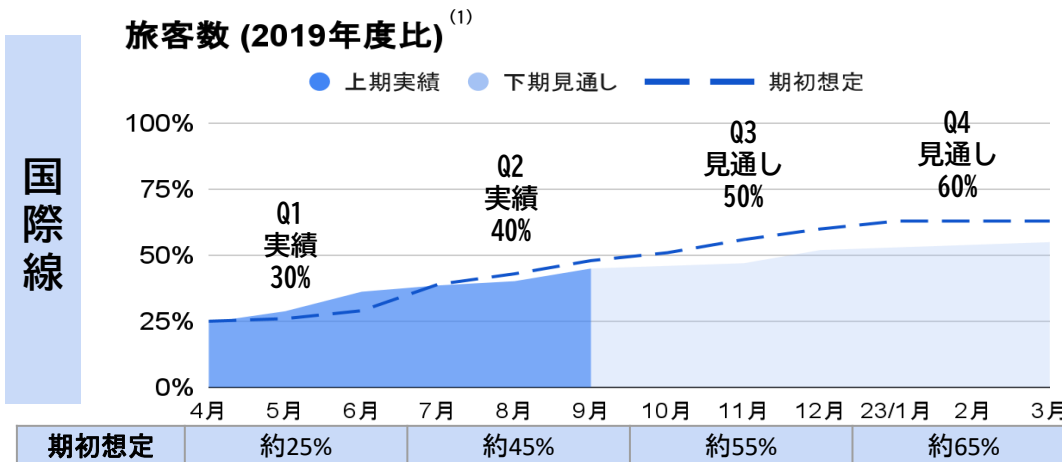
(単位：億円)	2021年度 実績	2022年度 期初予想	2022年度 今回予想	予想 増減額
売上収益	6,827	13,900	14,040	+140
費用	9,402	13,250	13,560	+310
EBIT	▲ 2,394	800	800	0
純損益	▲ 1,775	450	450	0

業績予想の前提

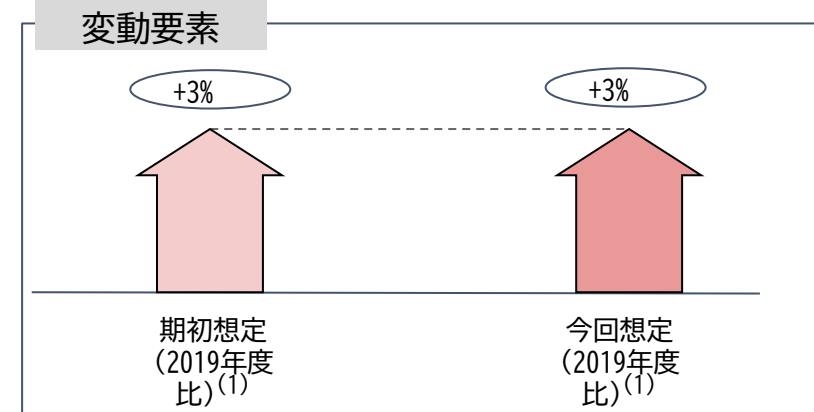
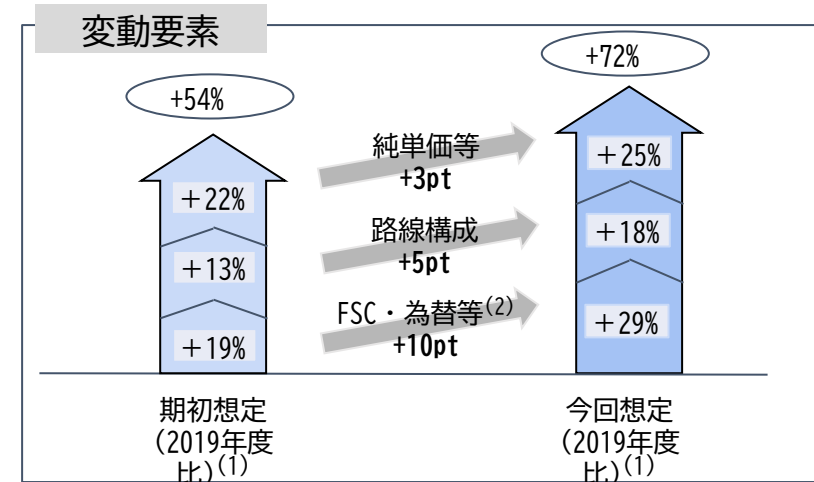
国際・国内旅客事業（フルサービスキャリア）

- ✓国際線は、旅客数は期初想定を下回るも、単価の大幅増により、収入は期初想定を上回る見込み
- ✓国内線は、今後需要の急回復が期待されるが10月までの下振れにより、収入は期初想定を下回る見込み

旅客需要



単価



(1) 2019年度比。 但し、1-3月はFY19Q3決算発表時に開示した業績予想値の前提となる需要予想値 (2) FSC=Fuel Surcharge

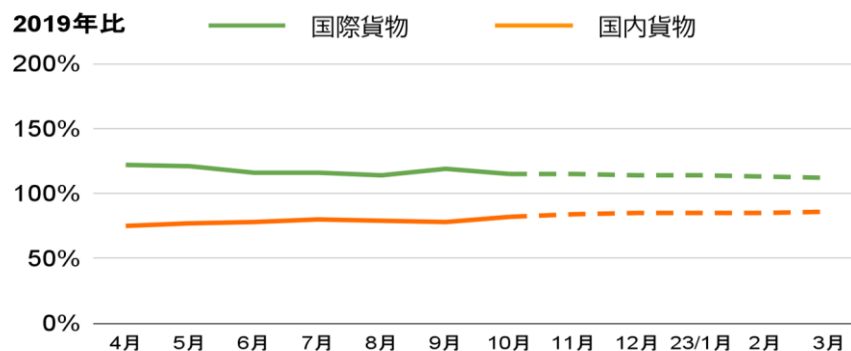
業績予想の前提 貨物事業、市況前提



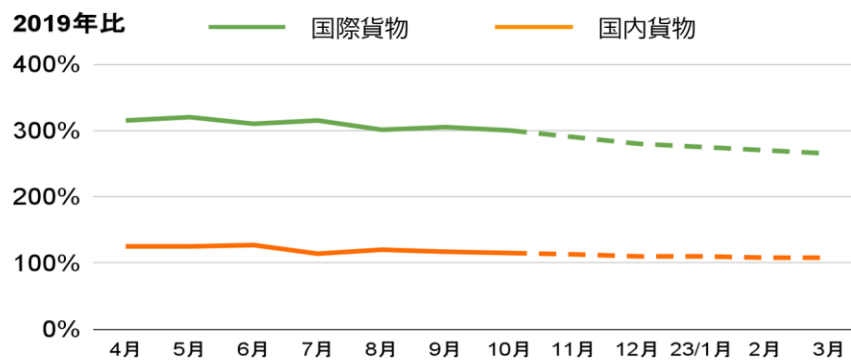
- ✓ 国際貨物は、需給バランスが緩みつつあるも、高単価を維持し収入は期初見通しを上回る見込み
- ✓ 市況は為替1ドル当たり145円、燃油はシンガポール・ケロシン125ドル/bblに設定

貨物事業

物量



単価



燃油・為替市況前提

	2021年度 実績	2022年度	
		前回予想	今回予想
シンガポール・ケロシン (USD/bbl)	81.6	120.0	132.7 (下期 125.0)
ドバイ原油 (USD/bbl)	74.3	95.0	102.9 (下期 100.0)
為替 (円/USD)	111.6	120.0	137.9 (下期 145.0)

燃油・為替の市況変動による第3四半期以降の 1ヶ月あたりの利益影響 (ヘッジ、燃油サーチャージ等込み)

(億円)	燃油市況 (USD/bbl)	ドバイ 原油	95ドル	100ドル	105ドル	115ドル
		シンガポール・ ケロシン	120ドル	125ドル	130ドル	140ドル
為替 (円/USD)	160円		▲5	▲10	▲20	▲30
	150円		±0	▲5	▲10	▲20
	145円		+5	±0	▲5	▲10
	140円		+10	+5	±0	▲10
	130円		+20	+10	+5	±0

1. JALグループ 2022年度 上期業績
2. JALグループ 2022年度通期連結業績予想
3. 下期の取り組み

下期の取り組み

フルサービスキャリア

国際線

- 好調な北米路線の供給を積極的に増強
- 海外発の販売・レベニューマネジメント強化

国内線

- 機材大型化・増便により足許で大きく回復する需要を最大限取り込む

貨物・郵便

- 他社供給の活用とともに、機動的に販売施策を実施し、物量確保・収入最大化を目指す
- 医薬品定温庫「JAL MEDI PORT」の活用により高付加価値貨物の取扱量を拡大する

LCC

ZIPAIR

- 12月のサンノゼ線就航に向け、好調な売り出し
- インバウンド取込みに向けて、増便を計画

スプリング・ジャパン

- 中国の水際規制緩和を待ちつつ、国内線を積極的に運航

マイル・ライフ・インフラ等

マイレージ・コマー্স

- 楽天/JALUX等の新サービス認知拡大に取り組み、マイルを「ためる」「つかう」機会を拡大

エアモビリティ

- 機材開発で先行するVolocopter社とビジネスモデルの検討を進める

その他

供給体制

コスト削減等

地域活性化

回復する需要に合わせて人員を確保、速やかに便数を回復

上期と同様、実質固定費を中心に費用削減を実施

持続可能な路線運営を通じた地域活性化を目指して5社⁽¹⁾ コードシェアを実現